

## 5. 東アジア近代における伝統とその変容

【研究代表者】村井寛志（外国語学部准教授）

【研究分担者】〔学内〕鈴木陽一（外国語学部教授）、孫安石（外国語学部教授）、東郷佳朗（法学部准教授）、松本安生（人間科学部教授）、馬興國（特別招聘教授）

### 【研究の目的と概要】

#### 目的

東アジアの近代化は、単に欧米の諸制度あるいは思想、文化を移したただけのものではあり得なかった。東アジアの各地域、とりわけ政治、経済、文化の中心であった都市においては、伝統的社会、制度、文化と西欧のそれとが激しく衝突を繰り返しながらそれぞれが変容を遂げつつ「近代化」がなされていったのである。

本研究は、そうした問題意識から、東アジアの近代化において、各地域の伝統文化がどのように変容していったのか、また伝統文化は欧米から導入したあるいは押しつけられた制度や文化をどのように咀嚼し飲み込んでいったのか、その結果、伝統と近代はどのようなモザイク模様となって今日の我々の社会や文化を規定しているのかを考えることとした。

#### 概要

上記の研究目的に即して、東アジアにおける各地域の伝統的な文化・社会・制度が、現在のそれをどのように規定しているかを考察する。具体的な対象として、当面、特に東アジア各地域の伝統的な環境観・自然観と、現在のその比較に重点を置くこととする。その際、歴史学・文学・環境学・法学などの枠を超えた、領域横断的共同研究を進めていき、伝統と現代をつなぐ中間項として、水俣、足尾など、近現代日本における公害発生地域の経験やその後の状況も適宜参照していく。

### 【研究計画】

1. 年に3～4回の公開研究会・講演会を開催する。
2. 中国東北部、同内モン族自治区、香港などにおける環境問題への取り組みに関するフィールドワークを行う。
3. 水俣、足尾など日本の公害発生地域でフィールドワークを行う。
4. 文学研究・歴史学研究の視点から伝統的な自然観・環境観の研究を行う。
5. 最終年度にはまとめのシンポジウムを開催する。